

富山県立大学ニュース

平成30年3月発行
富山県立大学学生委員会

NO.118

第28回 県大祭

Endless Possibility ~無限の可能性~
(10月28日・29日)



アカペラライブ



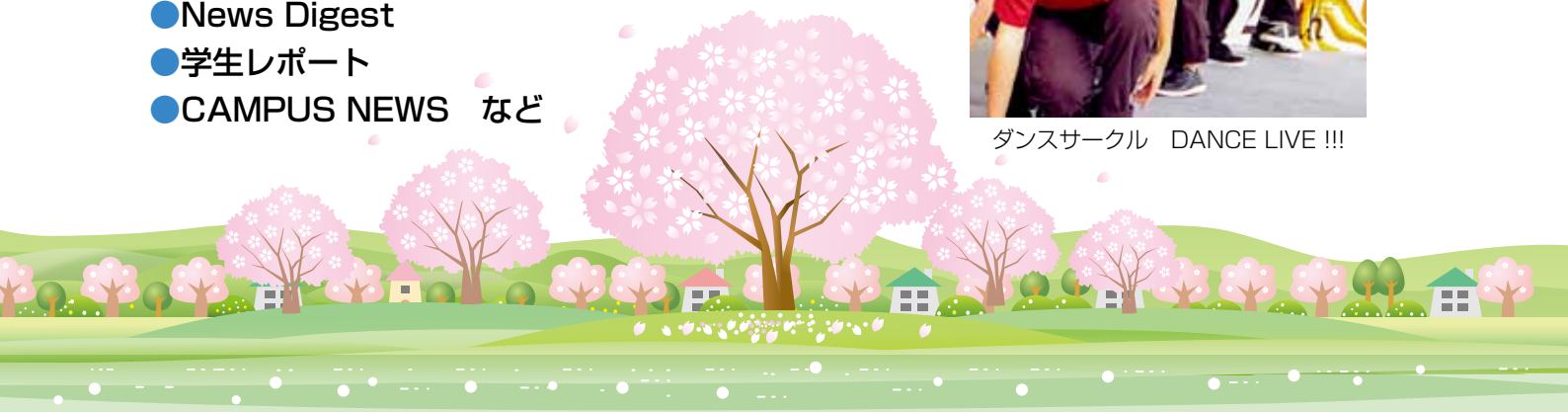
軽音楽部 KEION LIVE 2017



ダンスサークル DANCE LIVE !!!

CONTENTS

- 退職にあたり
- ドンドンマスマスコーナー
- News Digest
- 学生レポート
- CAMPUS NEWS など





「退職にあたって」

機械システム工学科 教授 川越 誠

大学は学問の府と呼ばれる。学問は筋道立った思考と導かれた結論の論証という過程を経て得られた知識の体系である(野家啓一「科学哲学への招待」)。そのような学問を実践する場が大学であり、その証として卒業証書ではなく学位記が授与される。西洋の大学の歴史を辿れば分かるように、大学教育の基盤は教養教育にあり、今日それは工学系においてこそ重要である。というのは、科学・技術が高度に進歩すればするほど、それを担う科学者や技術者には高度な教養が求められるからである。ここで言う教養とは、単に博識なことではなく、健全な精神、思慮深さ、判断力、賢明さを意味し、これらは古代ギリシアのピュタゴラスやプラトンが学徒に求めた資質であり、同時に教育目的でもあった。日本も先進国になったのであれば、それに相応すべく大学の教養教育を充実させることが肝要である(現今の国の方向はむしろ逆行の感がある)。本学がこの点をよく認識し、真に学問の府として(実業学校でなく)発展することを祈っている。新たに学位記を携えて社会に羽ばたく諸君にも自ら教養を高めていく努力を期待する。おわりに、開学時に着任以来28年が過ぎ、多くの方々にお世話になった。心より感謝申し上げます。



「研究開発の回想」—退職にあたり—

知能デザイン工学科 教授 前田 幸男

本学に赴任して12年目であり、その前は大学卒業後に横浜市で(株)日立製作所、高山市で(株)和井田製作所と生産技術に関する研究開発に従事して、42年目で定年退職を迎えます。(株)日立製作所では、生産技術研究所(現横浜研究所)加工技術センターにて日立全社の生産技術に関する研究開発に従事するとともに、1992年に東京農工大学で博士後期課程を修了しました。次の(株)和井田製作所技術部では、超硬合金のチップ工具研削盤やSiウェーハ用超精密研削盤の開発に携わりました。その後、2006年に本学工学部知能デザイン工学科教授として赴任しました。本学での研究テーマは① μ -TAS金型の微細溝加工技術と高速加工設備の開発、②各種難削材の環境対応ニアドライ切削加工技術、③超精密切削加工における表面欠陥発生メカニズムの解明とその低減技術に関する研究を実施し、研究論文と①は博士論文に纏めることが出来ました。また、これらの研究テーマについて、岩井准教授と一緒に学生の研究指導にあたり、その中でも研究室ゼミ終了後の懇親会では、学生達の爽やかな笑顔と共に、心から楽しむことが出来ました。本学を含む在職期間中に、大きな事故・病気が無く勤めることが出来ました。これは、ご指導頂いた諸先輩方と本学の教職員の皆様の温かいご指導の賜物と心より感謝申し上げます。

最後に、富山県立大のドンドン・マスマスのご発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念して、「退職にあたり」の挨拶といたします。



「大学生活12年間を振り返って」

電子・情報工学科 教授 松本 三千人

2006年4月に情報システム工学科の教授として着任しました。それまでの民間研究機関勤務から、教員としての仕事に不安と期待をもって着任したのが昨日のように思い出されます。

これまで、学生部長、工学部長などを経験させて頂き、問題を抱えた学生と直接話す機会や先生方が親身になって学生を指導する状況を知る事を通して、多くの事を学びました。また、工学部長の4年間を含めて5年間教務委員長として、本学の教育改革の先頭で貴重な経験をさせて頂きました。特に、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)の推進に中心的に関わった事は思い出深く、ここでの取り組みが、今後も本学の教育の特色として継続される事を望んでいます。

工学部長の後半の2年間は副学長を拝命し、教職員の皆様からのご支援・ご協力を頂きながら、大学の法人化、大規模な学科拡充等にも関わる事が出来ました。あっという間の充実した12年間でした。大変お世話になりました。

今、本学は少子化という厳しい環境の中で、大学間競争を生き抜いていくために、積極的な取り組みを進めています。他大学で進められている改革に後れを取らないよう、変化に柔軟に対処し、魅力ある大学として、ドンドン・マスマス発展していく事を期待しています。



「退職にあたり」

電子・情報工学科 教授 松田 弘成

退職にあたり、過ぎし反省数多の過去を振り返るとともに、教職員はじめ直接間接お世話になりました方々に御礼申し上げたいと思います。

大学への転身を決意した転機は、グローバルな企業間の激しい吸収・合併の荒波が自身の勤務していた企業にも押し寄せたことに発端がありました。当時既に大学に移られた先輩や上長にも相談し、大学の人事公募に応募しつつ、新しい製品開発を任せて戴きました。幸いなことに、当該の製品開発により主力製品とすることができたばかりでなく、研究論文にまとめ学会誌に採録されたことなどから本学への奉職が決まりました。

平成15年4月に情報工学講座の助教授として赴任してからは、安井教授から御指導戴きながら研究・教育・産学連携等を行ってきました。中田崇行氏も参画されてからは研究・産学連携の幅が広がり、卒論・修論のテーマも様々な分野をカバーすることができました。数多くの学生と卒論・修論の研究指導を通じて、議論を重ね技術者に成長していく姿を見ることができ大学教員になった甲斐がありました。

教育・研究以外の大学運営においても、教職員からの御理解・御協力を戴き、無事に15年間過ごすことができました。深謝申し上げます。最後になりますが、富山県立大学の益々の発展を祈念するとともに、教職員の皆様方の益々の御健勝をお祈り申し上げます。



「100万倍の発展を目指して」

電子・情報工学科 准教授 安宅 彰隆

昭和59年(1984)4月に本学の前身である富山県立技術短期大学一般教育講師に奉職し、着任直後から同校計算機センターの建設に携わり、半年後の完成時には県民への情報技術普及施設としての富山県情報教育センター副主幹を兼職して、大学教育と生涯教育の二足の草鞋で仕事を開始することになりました。その後、平成2年(1990)の本学開学に併せて、同施設は富山県立大学計算機センターとなり、私自身は当時の工学部電子情報工学科助教授に転科、基礎情報教育を担当すると共に、計算機センターシステムや学内外ネットワークの構築整備で、早や34年の年月が過ぎてしまいました。その間の情報技術の発展は人類史上異常とも言える進展であり、それを追いかけての日々は、苦勞が絶えませんでした。極めて充実したものだったと感じています。特に、計算機センターを開いた当初は1秒間に9600ビットという速度であった本学ネットワークも、現在は10ギガビット/秒という100万倍を通信する能力を保有しています。今後もこの進歩を教育・研究に活用された本学のさらなる発展を期待しております。



ドンドンマスマス！県大CAMPUS NOW！

このコーナーでは、本学の学科拡充・新設に伴うさまざまな取組みをお伝えします。

知能ロボット工学科の設置について

知能ロボット工学科の前身である知能デザイン工学科では、平成28年度から県内産業界のニーズに対応するため、ロボット分野に関する教育研究を強化し、入学定員をそれまでの50名から60名に増員しました。また、「ロボット創造演習」や「人工知能基礎」などロボット関係の専門科目を新しく設置し、更にロボット分野の教員を増員しているところです。平成30年度に、平成28年度入学生が3年次生となり、新規専門科目が開講することから、教育研究内容がより分かりやすい「知能ロボット工学科」に学科名称を変更し、新たにスタートすることになりました。

知能ロボット工学科では、機械工学・電子工学・情報工学の幅広い工学分野を教育し、これらの知識や技術を組み合わせる賢いロボットの設計や開発のできる多才な人材育成に取り組めます。特に、「賢い(インテリジェントな)ロボット」をキーワードに、高機能ロボット技術、インタフェース技術、知的計測技術、機能デバイス技術などの研究を行います。また、平成31年度の開設に向けて準備を進めている看護学部とも連携し、リハビリテーション福祉や障がい者福祉に関するロボット技術の研究開発に取り組む予定です。

知能デザイン工学科 教授 高木 昇



新棟の整備について

去る1月28日(日)に、新棟建築工事の起工式が行われました。2020年4月の供用開始を目指し、工事が本格化します。新棟は鉄筋コンクリート造地上9階地下1階建てで、主たる部分に免震構造を採用し、キャンパスの中央部に整備されます。既存の講義棟、図書館や厚生棟とは渡り廊下で2階とつながります。

建物中央は6階まで突き抜けた大きな吹抜け空間で、周囲に回廊が設けられます。1階は実験室のほか地域連携関連のスペース、2階が講義室とされ、研究室等は基本的に学科ごとにまとめて配置されます。400人収容の大講義室も整備され、学年全員を対象とした講義やオープンキャンパス等への活用が期待されます。

また、学生の主体的な学びの空間として、アクティブラーニング室のほか、各階に談話や交流ができるスペースが設けられる予定です。

現在、工事現場の周囲が仮囲いで覆われ工事用通路も設定されており、キャンパス内の移動が不便になっています。今後、さらに工事が進むにつれ、工事車両の通行が頻繁になり、騒音発生なども想定されます。学生、教職員各位にご理解、ご協力をいただきながら、引き続き安全確保に努めて、無事竣工を迎えたいと願っています。



起工式 石井富山県知事あいさつ



新棟 完成イメージ図

看護学部 新設予定！

本学では、看護を志す若者の進学先の確保と質の高い看護人材の供給のため、実践力の高い看護師の育成をめざす看護学部を平成31年4月に新設することとしました（定員120名）。平成30年3月に文部科学省へ設置認可申請書を提出予定です。

看護学部では少人数教育やアクティブラーニングを取り入れ、学生の皆さんの「自ら学ぶ」を積極的に支援するとともに、高度化・複雑化する医療に対応できる知識・技術を身につけるため4年間かけてじっくりと学べるカリキュラムを整備予定です。

また、工学系大学として歩んできた本学の特色を生かし、「看護学」と「工学」が連携した科目をカリキュラムに配置する予定です。

看護学部のキャンパスは、富山市内に現在新設中です。主な実習病院となり、先端医療を提供する富山県立中央病院に隣接し、先端医療に触れながら地域に根差した教育を実践していく計画です。



富山キャンパス完成イメージ

看護学部Facebookにて情報発信中!!
看護学部の整備状況を紹介しています。
ぜひご覧ください。
<https://www.facebook.com/toyamakendaikango/>



看護学部開設応援キャラクター
「看護学部のカンちゃん」

News Digest

富山県機電工業会による特別講義

平成29年後期に、知能デザイン工学科において、一般社団法人富山県機電工業会による特別講義「知能デザイン工学特別講義2」を開講しました。

この特別講義では、富山県産業の強みであるアルミ、工作機械、金型、電気・電子部品、ソフトウェアの企業の第一線で活躍している技術者等によるご講義や工場見学を通じて、学生の専門技術の理解と実践力の向上を図りました。

10月6日(金)の第1回の講義では、富山県機電工業会の大谷 渡 会長（YKK(株)取締役副社長）を講師に迎え、富山県のものづくりの特徴や強みなど、ものづくりの魅力を学生に伝えていただき、貴重な授業となりました。



第2回 英語スピーチコンテスト

10月27日(金)、アイザック小杉文化ホール ラポール ひびきホールにおいて、「第2回 富山県立大学学長杯争奪 英語スピーチコンテスト 決勝」が開催されました。

結果は次のとおりです。

【Recitation部門 学部1年次生の部】

優勝 医薬品工学科 高田 明花

準優勝 生物工学科 内田 かほ里、電子・情報工学科 加藤 哲朗

【Recitation部門 学部2～4年次生の部】

優勝 機械システム工学科 3年 黒瀧 春香

スピーチコンテストは、本学で推し進めている英語教育改革の一環として昨年度より行われており、本学学生が日頃の英語学習で培った成果を発表するひとつの機会となっています。

第28回 県大祭 開催!!

10月28日(土)、29日(日)に「第28回県大祭」が開催されました。

「Endless Possibility ～無限の可能性～」をテーマに、サークルによるステージライブや、自主栽培の手打ちそばや留学生の中華餃子といったバラエティに富んだ模擬店等の様々な催しが行われました。

メインステージ以外でも、軽音楽部による食堂ライブやガールズバンド「ねごと」によるアーティストライブ等が行われ、大きな賑わいを見せました。

学生はもちろん、地域の方々や子供達など大勢の方にご来場いただき、2日間の日程を無事終えることができました。





富山県立大学第16回FD研修会

10月30日(月)、本学において、FD研修会を開催しました。FDとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組みのことで、平成14年度から毎年1回開催しており、今回で16回目となりました。

今年度は、反転授業などのアクティブラーニングの実践についてや新教育プログラムの成果報告について、各教員から発表していただきました。

研修会後行ったアンケートでは反転授業やレポート作成指導システムなどの取組みが参考になったとの意見が多く得られました。

留学生交流会の実施

11月9日(木)に、「留学生交流会」を開催しました。平成27年より毎年開催し、今回で3回目となります。

今年度は8ヶ国からの留学生が参加し、日本人学生と合わせてこれまでで最多の40名もの学生が参加しました。学生達は、英語や日本語を駆使し、時には身振り手振りを交えて、お互いの国の文化や日本での生活などについて会話を楽しみ、交流を深めました。

事後アンケートでは、「様々な国の人と交流できて良かった!」「普段海外の方とあまり話す機会がないので、とても新鮮な経験だった。」などの感想が寄せられ、それぞれ充実した時間を過ごすことができたようでした。



富山県立大学秋季公開講座

11月11日(土)、18日(土)、25日(土)の3日間、本学大講義室において秋季公開講座を開催しました。今回は、知能デザイン工学科の教員、看護学部開設担当の竹内教授などが中心に講師となり、「看護学×工学が創る新たな医療」をテーマとして講義を行いました。平成31年に予定している看護学部開設に先立ち、看護学と工学が連携していく必要性などについて、広く県民の皆様を知っていただく貴重な機会となりました。県内各地から延べ447名が参加され、「看護と工学のつながりに夢が広がった」など嬉しい感想をいただきました。

平成29年度 富山県立大学環境講演会

11月30日(木)、アイザック小杉文化ホール ラポールにおいて、「富山県立大学環境講演会」を開催しました。この講演会は、環境問題に対する知識や問題意識について学ぶことを目的としています。

今年度は、「情報通信と環境」と題して、武蔵野大学工学部環境システム学科教授 高橋 和枝 氏にご講演いただきました。

情報通信機器の増加は、エネルギー問題をもたらす一方で、電子書籍による紙資源の削減にもつながるなど、情報通信機器が環境へ与える正負面の影響と、今後の利用について、学内外の総勢189名が熱心に講演内容に聞き入っていました。



大谷米太郎記念基金事業による大学院修学奨学金の支給について

大谷米太郎記念基金により平成27年度から実施している大学院修学奨学金について、去る1月17日(水)に平成29年度支給決定通知式が行われ、5名の大学院生に、石塚学長から支給通知書が交付されました。

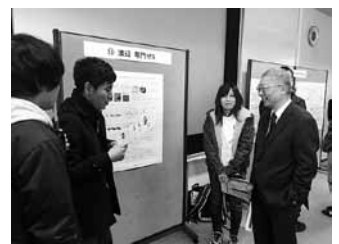
大谷米太郎記念基金は、本学の前身の県立大谷技術短期大学の開学に多大な貢献をされ、郷土愛の熱かった本県出身の実業家の大谷米太郎翁が出捐・設立された財団の残余資産をもとにした基金です。翁(故人)やご子孫の願いを踏まえ、優秀な人材を育成するための学生支援事業として、本学を優秀な成績で卒業し、本学大学院博士前期課程に進学した1年次生を対象に、年間授業料の半額に相当する奨学金を支給しています。

今回、奨学金を受けられた皆さんには、学生の模範として一層勉学に励まれ、将来、優秀な研究者や技術者として活躍されることを期待します。

本学も、学生の皆さんの励みとなるよう、今後とも本事業による支援を続けてまいります。

平成29年度後期 地域協働授業成果発表会

「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」の取組みとして実施している「地域協働授業」での成果を広く知っていただくため、2月1日(木)、2日(金)に本学にて「地域協働授業成果発表会」を開催しました。2年生のトピックゼミ、3年生の専門ゼミを中心とした計27グループが、地域振興等に関する発表をし、学生、教員、地域関係者等約400名が参加しました。今回の発表はポスターセッション形式で、発表者と参加者による活発な意見交換や質疑応答が行われました。地域の様々な課題等を共有するだけでなく、どうすれば興味を持ってもらえるかを考えるよい機会となりました。



本学教員等の受賞等について

受賞者	表彰の名称	表彰内容（論文名等）	受賞日
安田 佳織 助教 (医薬品工学科)	1st prize of the Poster Award 2017 (Innovation Forums Basel Life 2017)	Application of actinomycetes CYP105A1 to the production of active forms of vitamin D or drug metabolites.	2017年9月12日
坂本 正樹 講師 (環境・社会基盤工学科)	2017年陸水学雑誌論文賞	白樺湖における生物操作に伴う移入種オオクチバスの食性変化	2017年9月30日
増田 寛之 講師 (知能デザイン工学科)	Best Paper Award (The 18th International Symposium on Advanced Intelligent Systems (ISIS2017))	Presentation Robot System for Interacting with Participant	2017年10月13日
脇坂 暢 准教授 (環境・社会基盤工学科)	2017年電気化学会北陸支部秋季大会 優秀発表賞	マイクロエマルジョンを反応場としたトルエンの電解水素化	2017年11月2日
安田 佳織 助教 (医薬品工学科)	日本薬物動態学会第32回年会 ベストポスター賞	Comparative analysis of 25-hydroxyvitamin D3 metabolism between wild-type and CYP24A1-knockout rats	2017年12月1日
鈴木 浩司 准教授 (教養教育)	第6回いきものにぎわい市民活動大賞 富士フィルム・グリーンファンド活動奨励賞	対馬に生息する希少植物種を保全するための植生回復および栽培試験に関する調査研究	2018年1月24日

本学学生等の受賞等について

受賞者	学科等	学会賞名	受賞年月	指導教員
倉地 俊哉	博士前期課程知能デザイン工学専攻1年	優秀論文発表賞（平成29年度電気関係学会北陸支部連合大会での発表論文に対する日本音響学会北陸支部からの表彰）	2017年10月	教授 平原 達也
津田真理子	博士前期課程知能デザイン工学専攻1年	Best Paper Award (The 18th International Symposium on Advanced Intelligent Systems (ISIS2017))	2017年10月	講師 本吉 達郎
倉地 俊哉	博士前期課程知能デザイン工学専攻1年	日本音響学会聴覚研究会 研究奨励賞	2017年10月	教授 平原 達也
天文部		第10回とやまビジネスプランコンテスト 学生部門 最優秀賞	2017年10月	講師 松本 公久 (天文部顧問)
山下 綾菜	生物工学科4年	第62回リグニン討論会 学生ポスター発表賞	2017年10月	教授 占部 大介 准教授 岸本 崇生
宮本 瞭	知能デザイン工学科3年	平成29年度福祉用具・アイデアコンクール 入賞	2017年11月	教授 大島 徹
石塚 加菜	知能デザイン工学科3年	平成29年度福祉用具・アイデアコンクール 入賞	2017年11月	教授 大島 徹
角川 勇貴 中根 和城	知能デザイン工学科3年	設計コンテスト2017 優秀発表賞	2017年11月	教授 神谷 和秀 (発明倶楽部顧問)
牧野 公博	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	2017年度精密工学会北陸信越支部学術講演会 ベストプレゼンテーション賞	2017年11月	教授 神谷 和秀
新井 雄登	博士前期課程情報システム工学専攻1年	2017年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年11月	准教授 岩田 栄之
牛田 慧	博士前期課程情報システム工学専攻1年	2017年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年11月	教授 松田 敏弘
岡 大貴	博士前期課程情報システム工学専攻2年	2017年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年11月	准教授 石坂 圭吾
嘉指 裕介	博士前期課程情報システム工学専攻1年	2017年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年11月	准教授 中田 崇行
木下愛佳子	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	2017年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年11月	准教授 高野 博史
酒井 一樹	博士前期課程情報システム工学専攻1年	2017年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年11月	准教授 中田 崇行
高林 悠	博士前期課程情報システム工学専攻2年	2017年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年11月	准教授 中田 崇行
竹村 宗泰	博士前期課程情報システム工学専攻1年	2017年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年11月	教授 松田 敏弘
寺井 敬祐	博士前期課程知能デザイン工学専攻2年	2017年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年11月	准教授 高野 博史
山本 旭	博士前期課程情報システム工学専攻1年	2017年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年11月	教授 松田 敏弘
山本 淳史	博士前期課程情報システム工学専攻2年	2017年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年11月	准教授 石坂 圭吾
川本 哲也	知能デザイン工学科4年	日本知能情報ファジィ学会合同シンポジウム2017 第26回北信越支部シンポジウム&第23回人間共生システム研究会 奨励賞	2017年12月	講師 増田 寛之
道場 貴朗	博士前期課程知能デザイン工学専攻1年	第18回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 SI2017 優秀講演賞	2017年12月	講師 澤井 圭
牧野 圭将	環境・社会基盤工学科3年	射水市 学生による政策提案審査会 特別賞	2018年1月	講師 中村 秀規
角川 勇貴	知能デザイン工学科3年	富山県機電工業会「ものづくりinとやま」最優秀賞	2018年2月	教授 神谷 和秀 (発明倶楽部顧問)
七間 一樹	知能デザイン工学科2年	富山県機電工業会「ものづくりinとやま」優秀賞	2018年2月	教授 神谷 和秀 准教授 伊東 聡
坂内 亮太	知能デザイン工学科4年	電子情報通信学会 北陸支部 優秀学生賞	2018年2月	講師 森重 健一
竹内 章裕 尾山 武史 黒田 雄太	電子・情報工学科3年 博士前期課程情報システム工学専攻1年 電子・情報工学科4年	とやまIoTビジネスアイデアコンテスト2017 学生の部 優秀賞	2018年2月	准教授 中村 正樹 准教授 榎原 一紀 准教授 中田 崇行

ドイツ短期留学を経験して

博士前期課程生物工学専攻2年

樋口 純

私は2017年7月末より2か月間、ドイツBielefeld大学のHarald Gröger教授の研究室に滞在させていただきました。今回、私は酵素を用いる有用物質合成の分野の先端を走るGröger研で、aldoxime dehydrataseの研究を行い、合成の技法、研究に対する考え方を学ぶべく留学をさせていただきました。安全管理、就業時間、実験室の制度など、最初は戸惑うこともありましたが、しかし、幾度にもわたりGröger教授と熱く議論し、限られた時間を最大限有効活用し、着実に結果を出していく異国の学生達と同じ環境に身を投じられたことで、今後、日本で研究を行っていく上で、非常に良い経験を積むことができました。

また、私がドイツへ着いてから1か月後、参加した自転車レースで不注意により事故を起こし、大きな怪我を負った際、多くの一般市民の方に助けられました。その後、ドクターストップにより2週間登校禁止となってしまいましたが、関係者の方々の尽力もあり、無事研究室に復帰させていただきました。実験ができない間は、Gröger教授にデスクワークを与えていただき、論文の執筆のお手伝いをすることができました。この留学を通して、研究の経験を積むことだけでなく、研究室での手厚いサポートや自転車事故の際の介助などで、人種を越えて多くの人の慈愛に触れることができましたが、自分の行動が様々な人に影響を及ぼすことを自覚し責任を持った行動をしなければならないと自戒しました。

最後にこのドイツ留学は、日本学術振興会の二国間交流事業のご援助により可能となったものです。ドイツでお世話になったGröger教授とその奥様、および研究室の皆様、そして国内外の全ての関係者の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



富山県立大学県民開放授業 (オープン・ユニバーシティ)

INFORMATION

～平成30年度前期受講生募集～

本学では、地域の方々に正規の授業を公開する県民開放授業（オープン・ユニバーシティ）を実施しています。簡単な手続きとリーズナブルな受講料で、教養教育科目や専門科目など約80科目のバラエティに富んだ授業を学生と一緒に受講いただけます。

- ◆募集期間◆ 平成30年3月15日(木)～3月30日(金)
- ◆授業期間◆ 平成30年4月9日(月)～8月9日(木)
- ◆公開科目◆ 約80科目 一般教養科目…社会学Ⅰ、心理学Ⅰ、数学Ⅰなど
工学部専門科目…機械加工学、ロボット工学基礎、生物情報学など
- ◆受講料◆ 1科目5,000円(複数科目の受講可能) ※研究協力会員は半額助成となります。
- ◆お申込み・お問い合わせ先◆ **詳しくは下記大学HPをご確認ください。**

富山県立大学地域連携センター(受講生窓口)

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL: 0766-56-0604 / FAX: 0766-56-0391 / E-mail: openuniv@pu-toyama.ac.jp

URL: <http://www.pu-toyama.ac.jp/local/shougai/>

学位記授与式

平成29年度の学位記授与式をアイザック小杉文化ホールラポールにて執り行います。また、授与式後、本学大谷講堂にて後援会及び卒業生一同による「卒業記念・謝恩パーティー」を行います。

【授与式】

◆日時: 平成30年3月17日(土) 午前10時～

◆会場: アイザック小杉文化ホール ラポール (射水市戸破1500番地)

【卒業記念・謝恩パーティー】

◆日時: 平成30年3月17日(土) 午後0時45分(予定)～

◆会場: 本学大谷講堂

SCHEDULE 平成29~30年度

	工 学 部	大 学 院
3月	1日(休)~2日(金) スキー講習会 17日(土) 学位記授与式	8日(休) 一般入試(前期日程) 合格発表 22日(休) 一般入試(後期日程) 合格発表
4月	5日(休) 入学式	4日(休)~6日(金) オリエンテーション 4日(休)~6日(金) 学生定期健康診断 4日(休)~5日(休) 学生定期健康診断 9日(月) 前期授業開始
5月	25日(金) 学生球技大会 25日(金) 研究協力会総会	

CAMPUS NOTE

Core Creative Manager(CCM)



こんにちは、CCM代表の伊達です。私達は「富山県立大学を学生の力でより良い大学に！」をモットーに活動している団体です。例えば、富山県立大学専門ニュースサイト「tpumarker.net」を開発して運営していたり、県大祭アプリを開発したり、大学内のトイレの情報を載せたWebサイトを開発したり...他にも大学事務局からの依頼でWebサイトやシステムの開発も行っています。まるで情報技術大好きな感じですが、最近は動画作成にハマってまして、県大のダンスサークルさんとのコラボ動画を作ったりとか、県大の学歌ができるということで学歌のPVを作ろうとしていたりしてます。とにかく、私達は富山県立大学を盛り上げるため、楽しみながら必死に色々企画して実行しています。特に私達に決まりごとはありません。何しろ代表の私が放任主義でみんな結構勝手にやっています。しかも、もっと勝手に色々したいことガンガンやっています。って思ってます。大学を盛り上げる良いアイデアあるぞ、って人は一報ください。一緒にやろうよ、学生の考える最高の大学作り。待ってまーす。

(代表 博士前期課程情報システム工学専攻2年 伊達 伸之輔)

編集後記

早いもので卒業・修了の時期を迎えました。卒業生・修了生の皆様、おめでとうございます。また、ご両親の皆様には、ご苦労様でした。

今年の冬は過去の大雪と比較されるほど雪が多く、通学や通勤を始め、ずいぶん雪に悩まされました。また、この一年の間に大学には大きな変化がありました。昨年度の東駐車場の整備に始まり、昨年夏には生協食堂・購買の改装や移転があり、秋には合同講義棟、環境・社会基盤工学科の実験棟やそれに通じる連絡通路が取り壊され更地となりました。本年1月28日に新棟の起工式が行われ、2020年春の完成を目指して、建設が本格化しました。さらに、新たなプレハブ(西棟W-4)の建物も建設中です。2年後には県立大学のランドマークとなる9階立ての新棟が完成することになるなど、新しいキャンパスの整備に向けて邁進中です。

さて、新米の学生部長を拝命してから一年を迎えたわけですが、この間、多くの学生さんとお話をさせていただきました。学生が相談できる機会としては、学生相談室、キャリアセンター、各種ゼミなどの場があります。主に学生部長は、休学・退学の学生を担当してきました。多くの学生さんが学業、経済、人間関係などさまざまな悩みや問題を抱えていることはもちろん承知していますが、その多様さに改めて気づかされました。すぐに解決できることはあまりありませんが、一つの解決策として「対話の重要性」を感じています。自分から相手に働きかけてみる、たとえば、まず自分から挨拶をするなど「きっかけをつくること」を心がけてみてはいかがでしょうか。自分一人ですることは限られています。他人が困っていれば助け舟をだしてあげて、自分が困っていたら助けてもらえる。そんなキャンパスにできれば良いなと思った次第です。もちろん自分でできることは自分で、またできることを増やして行く努力を忘れない様にしなければなりません。

在学生も、新年度から専門的な授業が始まり、研究活動、就職活動も迎えるなど、新たな生活が始まることでしょう。学生のご両親やその関係者の皆様には、人生の良き先輩として学生の支えとなるサポートをお願いいたします。

卒業生・修了生の皆様の更なる発展や飛躍を期待しています。

(学生部長 中島 範行)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。